

学生の頃から始めたというチェロを優雅に奏でる白石先生



特集

子どもと音

音からひろがる子どもの世界

親子で一緒に
音を楽しむ時間を
共有しましょう

赤ちゃんがお腹にいる時から聞こえている音。生まれてからも日々聞こえる音は子どもたちにとってどのような影響を与えているのでしょうか？聞かせたい音を求めて、長崎女子短期大学幼児教育学科教授の白石景一先生に話を聞きました。



この方に話を伺いました！

●白石景一先生 プロフィール

長崎女子短期大学 幼児教育学科教授。子どもの頃に触れ合った音楽が成長に影響を与えていると感じ、子どもにとって音楽とは？なぜ教育に音楽が必要なのか？いい音楽とは？を探求し、保育者を目指す学生を40年以上にわたり指導。



子どもは母親の感情に共感

妊娠中の母親は、胎動を感じたり、話しかけたりして、まだ見ぬ子どもに想いを馳せます。

「でっすね。お腹にいる赤ちゃんに話しかけることで絆を感じて幸福感を得たり、同時に赤ちゃんも幸福な気持ちになっています。例えば、毎日夫婦喧嘩をしたり、周辺で工事の音などの騒音がしたり母親が不快に感じることは赤ちゃんも不快なもの。母親が安心して過ごすことが子どもにとって良い影響を及ぼすと私は思います」と白石先生は話します。

音は音楽的能力以外の発達も

音(音楽)は、子どもの成長にとってどのような影響を及ぼすのでしょうか。

「音(音楽)は、抽象的で不思議なもの。また、無意識のうちに心の深いところに働きかける力を持つているのだと思います。子どもは母親との絆を確保するため5〜6歳までは聴覚が鋭敏であると言われており、幼児期は音楽の基礎的な感覚を獲得する重要な時期。目に見えない音を媒体とした経験から音高感や速度





どんな音楽を聞かせても良いのでしょうか。
「子どもは親と一緒に音(音楽)を楽しむことで幸せな時間へとつながっていきます。例えば、鈴虫の鳴き声を聞いて、何の音かな?」などと会話しながら幸福感を共有することが大切です。テレビやネットなどからどんなに良い音楽が流れていたとしても、そこに人との関わりが

音と一緒に楽しんで幸福感を共有

感、音色感、リズム感、時間の感覚、音量のバランス感などのさまざまな感覚の発達を促しつつ、音楽的能力以外の発達にも影響すると考えられます」。



なければ幸福感は得られません。子どもの音との出会いを大切に、その場その瞬間を共有し共感することが、音に対する感受性をさらに豊かにするきっかけにもなるでしょう。音とは、まわりの環境も大切のようです。

心に残るふるさとの音

子どもの頃に聞いた祭りの音が聞こえると、楽しい思い出が一体となりワクワクするもの。

「長崎は爆竹の音や教会やお寺の鐘の音など独特な音に溢れています。子どもの頃に聞いた音や音楽は心の「ふるさと」に繋がっていくと思います。また、子どもの遊びとともに歌われる『わらべうた』は日本語から生まれた歌です。わらべうたを含む世界の民族音楽の多くは5音階(ペンタトニック)によるものが多く、日本の『わらべうた』も、その多くは「レミソラド」の5音階。遊びと一体になっているわらべうたは親子で楽しめる身近で気軽な音楽ですよ」。日本に生まれた子どもたちに、歴史ある音の楽しさも伝えたいですね。



速報!

2019年6月～
長崎県美術館で
開催決定

長崎新聞
創刊130周年
記念事業

DETECTIVE CONAN
名探偵 **コナン**

科学捜査展
真実への推理

© 青山剛昌 / 小学館・読売テレビ・TMS 1996

手がかりは
ゼロじゃない!

長崎新聞社は来年、創刊130周年記念事業として「名探偵コナン 科学捜査展～真実への推理(アブダクション)～」を開催します。 **展覧会に加えて、スペシャルなイベントも計画中!!**

くわしい情報は決定次第、長崎新聞で発表します。ご期待ください。